

⑫ 実用新案公報 (Y2) 昭 58-52204

⑬ Int.Cl.⁸
B 65 D 51/18

識別記号

庁内整理番号
6862-3 E

⑭ 公告 昭和 58 年 (1983) 11 月 28 日

(全 2 頁)

1

2

⑮ 王冠

⑯ 実 願 昭 55-104717

⑰ 出 願 昭 55 (1980) 7 月 24 日

⑱ 公 開 昭 57-29548

⑲ 昭 57 (1982) 2 月 16 日

⑳ 考 案 者 林 田 光 治

奈良県北葛城郡広陵町寺戸 27 番
地

㉑ 出 願 人 三笠産業株式会社

奈良県北葛城郡広陵町萱野 651 の
1

㉒ 代 理 人 弁理士 斎藤 侑 外 2 名

㉓ 引用文献

実 開 昭 51-56352 (J P, U)

㉔ 実用新案登録請求の範囲

合成樹脂製の瓶蓋 1 の上部に形成した鍔部 2 に横溝 3 を形成し、又該瓶蓋 1 に金属製の冠頭 4 を被せ、該冠頭 4 を前記横溝 3 内に絞縮 5 し、かつ該絞縮部 5 に、上下方向に平行に乃至下方幅広となるテーパを形成した形状の高さ H を有する架橋部 6 を、絞縮残余部として形成し、又架橋部 6 を除いた前記絞縮部 5 において、横方向に、かつ前記架橋部 6 の上端部より低い位置に切断線 7 を形成し、更に前記冠頭 4 に、つまみ部 8、及び該つまみ部 8 から前記切断線 7 方向に向う弱化部 9、10、11 を形成したことを特徴とする王冠。

考案の詳細な説明

この考案は王冠に関するものである。

従来、第 1 図、及び第 2 図に示すような王冠が用いられている。

これを図について説明すると、第 1 図において、a は合成樹脂製の瓶蓋であり、その上部の鍔部 b に横溝 d が形成されている。c は外筒を示す。又前記瓶蓋 a にはアルミニウム等の冠頭 e が被せられており、そして該冠頭 e は前記横溝 d 内に絞縮 f

させられており、かつ該絞縮 f によりこの部分はいくく脆弱化させられている。又冠頭 e は、瓶口 g の凹部 h にかしめられるが、その際前記絞縮部 f は下方に引張られる結果、一層脆弱化させられている。このため消費者等が、つまみ i を持ち、図において右方に引張ると、冠頭 e は、弱化線 j にそって裂け、前記絞縮部 f から容易に裂きとれるようになっている。

ところが、このような王冠は下記の如き難点がある。即ち (1) 封緘操作中に絞縮部 f において破断してしまい、かつ破断個は開離して商品価値を著しく低下させる。又輸送途中において不注意な取扱いにより、前記絞縮部 f は切れてしまい、開封されてしまう場合がある。

次に、第 2 図に示す如く、その絞縮部 f' にミシン目 k を形成したものがある。この王冠は前記の如き難点を有しないが、下記の如き他の難点を有している。即ち消費者等が、この王冠を開封する場合、ミシン目 k は所謂バリを生じ、それにより怪我の恐れを生ずる。

この考案は上記の状況にかんがみてなされたもので、この考案の目的は輸送途中の取扱いにおいて、前記の如く開封してしまうことがなく、かつ開封に際してはバリ等の生じる恐れのない王冠を得ることである。

この考案の構成を図について述べると、第 3 図～第 5 図において、合成樹脂製の瓶蓋 1 の上部に形成した鍔部 2 に横溝 3 を形成し、又該瓶蓋 1 に金属製の冠頭 4 を被せ、該冠頭 4 を前記横溝 3 内に絞縮 5 し、かつ該絞縮部 5 に、上下方向に平行に乃至下方幅広となるテーパを形成した形状の高さ H を有する架橋部 6 を、絞縮残余部として形成し、又前記絞縮部 5 において横方向に切断線 7 を形成し、更に前記冠頭 4 につまみ部 8、及び該つまみ部 8 から前記切断線 7 に至る弱化部 9、10、11 を形成したことを特徴とする王冠である。

なお図中 12 は内筒、13 は外筒、14、14' は突起を

3

示す、又前記弱化部 9, 10, 11 は地岐状部と切れ目から成ることを示すが、これに限るものではなく、この他ミシン目等であつてもよく、要するに消費者等が裂き切り易く、弱化させて形成されていればよく、そのようなものを指すものである。

又前記架橋部 6 は、絞縮部 5 に較べ、比較的残余するだけで、完全な形で残余しなくても差支えない。即ち若干絞縮されていても差支えない。

消費者等はつまみ 8 を持ち、弱化部 9, 10, 11 を裂きとり、前記切断線 7 に至り、更に架橋部 6 を引き裂いて、冠頭 4 下部を裂き取り、これにより瓶口に対するかしめを解除し、かつ該裂き取りの残余を瓶蓋 1 と共に栓として用いる。この考案は前記の如く構成され、切断線 7 は絞縮部 5 に形成され、架橋部 6 には形成されていないので、この王冠を装着した瓶詰商品の輸送途中の取扱いにおいて、前記従来例に示すような不注意等による開封を防止することができる。

4

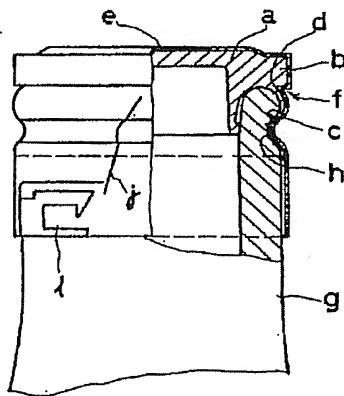
しかも切断線 7 は、架橋部 6 の上端部より低い位置に形成したことにより、架橋部 6 は裂切られる場合、その上端部から切られるため、瓶蓋 1 においては、その切取端部は常に切断線 7 により上方に、即ち内側に若干入った位置に形成されるため、これを扱う者に怪我の恐れをなくすることができる。

図面の簡単な説明

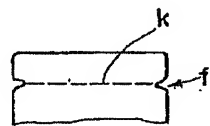
第 1 図は従来の王冠の部分断面図、第 2 図は他の、従来の王冠の部分正面図、第 3 図はこの考案の実施例を示すもので王冠の半断面図、第 4 図はこの考案の他の実施例を示す王冠の半断面図、第 5 図はこの考案の更に他の実施例を示す王冠の正面図、第 6 図は、第 3 図に示す王冠の開封状態を示す図である。

1……瓶蓋、2……鋸部、3……横溝、4……冠頭、5……絞縮部、6……架橋部、7……切断線、8……つまみ部、9, 10, 11……弱化線、H……高さ。

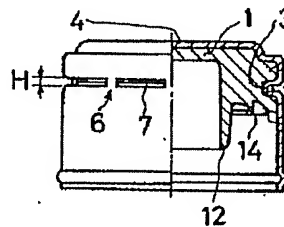
第 1 図



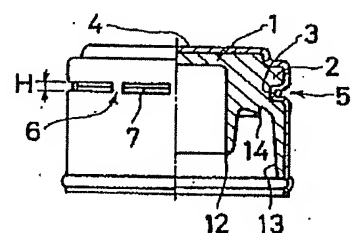
第 2 図



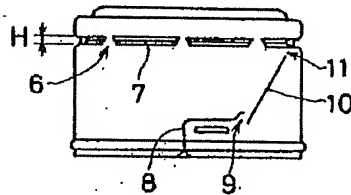
第 3 図



第 4 図



第 5 図



第 6 図

